



## 大阪部会(第 33 回)

日 時: 2013 年 4 月 27 日(土) 18:00~20:15

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 33 回の大阪部会の出席者は 12 名。

(1) まず、経済教育ネットワーク篠原総一代表(同志社大学)から、最近の活動内容および今後の予定が報告された。とくに、ほぼ確定した 2013 年度「先生のための経済教室」についての意見交換が行われた。今年度も非常に興味深いテーマのプログラムが並んでいるとの評価があった。大阪では 8/5(月)に中学教員、8/6(火)に高校教員向けの研修が実施される。

(2) なお、経済教室で各所中学の部の最後に予定されているプログラム「みんなで語ろう!」については、例年通りグループに分かれて、講師・スタッフが巡回する形で行うか、シンポ形式で行うかがまだ確定していない。大阪部会出席者の間では、グループに分かれて、参加者に自由にしゃべってもらう方がよいとの意見が多かった。また、関本祐希氏(交野支援学校四條畷校)から、これまでの経済教室の意見交換会で、どのような点に質問が集中するかはある程度分かっているのだから、それへの回答を参加者全員に知らせる場があってよいのではないかと意見があり、検討することになった。

(3) 3/23(土)に同志社大学で開催された法と経済をテーマにした年次大会について、シンポジウムパネラーであった関本氏から、いろいろな考え方がある点や、世代による考え方の違いに気づかされた点などが報告された。

(4) 山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、「公民高校現代社会で「幸福・正義・公正」をどう教えるか」というテーマでの授業提案があった。「現代社会の論点」を活用して、生命をめぐる問題、情報をめぐる問題、環境をめぐる問題、資源・エネルギーをめぐる問題のそれぞれについて、正義等について考察・発表・議論させる授業展開である。かなり事前準備を要する高度なものと思われるが、とくに理科系高校生の問題意識を刺激する課題設定となっている。

(5) 河原和之氏(立命館大学・関西大学中等部)から、「大きな政府か小さな政府か」と題する教材紹介と授業提案があった。中学公民の政治単元で内閣の授業をしたあとに位置づけられ、大きな政府と小さな政府の意味を考えさせる、それぞれのメリット・デメリットを整理させる、その後理由とともにどちらの政府がよいか、どの程度の政府が良いかプレゼンさせるというものであり、出席者からの高い評価の声があがった。経済単元の財政を学んだあとに、あらためて大きな政府か小さな政府か問いかけて、違い(成長)を自覚させるとよいなどの意見があった。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2013 年 7 月 13 日(土) 18:00~20:00。場所は未定。